

【教育実践研究部門】 研究代表者：服部一啓 (共同研究者：豊蔭啓司，片平誠人)

研究協力者：梶原忠信，尾中勇，柴田康弘他，附属小倉中学校教職員)

# 「自ら創造的に学ぶ力の育成 -教科等横断的なカリキュラム・マネジメントによる真正な学びのデザイン-」

## 研究の概要

### ◆課題認識

- ・令和3年度より全面実施となる中学校新教育課程での重要キーワード：カリキュラム・マネジメント(以下、CM)
- ・「マネジメント」の語感から、CMは管理職が行うものという誤解
- ・さらに教科担任制が基本の中学校では、教科横断による学習デザインの具体的な手立ては明らかになっていない

### ◆研究の目的

- ・子どもにとって“真正な学び(ガちな学び)”を提供するための教科等横断的な学習テーマ(学習内容)を設定する方法およびその事例を開発し、提案する

### ◆研究の方法

- ・「CMの理論」「CM事例(モデル)の提案」「CM手順の明示」を、附属小倉中学校における実践から明らかにする

## 研究のポイント・成果

### ◆研究のポイント

#### ①教科等横断のための関連づけ類型の提示

- ・学習内容、資質・能力をベースに教科等横断の方法を6つの類型(右表)に整理

#### ②①にもとづく事例の開発

- ・真正なパフォーマンス課題
- ・学習のための/としての評価実践

#### ③社会的課題解決のためのコレクティブ・インパクトアプローチ

- ・企業や行政など、学校外の組織との協働
- ・特にSDGsをテーマとした連携による「ホンモノの学び」の模索

### ◆成果

- ・多くの地域、学校で活用可能な「CMの手引き」の公開(学校ホームページpdfデータを公開)
- ・コロナ禍におけるカリキュラム調整への柔軟な対応

原理	類型	教科等横断の方法
学習内容 ベース	①合科型	複数の教科等が関連する内容によって、結びつけられるもの。
	②主従関連型	いずれかの教科等の目標達成のために、他の教科等の内容を関連づけたもの。
資質・能力 ベース	③道徳科内容 項目関連型	道徳科の内容項目のいずれか(あるいは複数)を中心として設定したテーマに、各教科等を位置づけたもの。
	④総合的な学習 の時間関連型	総合的な学習の時間の目標や内容に向かって、各教科等を位置づけたもの。
	⑤学習の基盤と なる資質・ 能力関連型	言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成に向けて、教科等を関連づけたもの。
	⑥現代的な 諸課題関連型	現代的な諸課題(健康・安全・食、主権者、新たな価値の創造、グローバル化、多様性、伝統・文化、持続可能な社会など)に対応して求められる資質・能力の育成に向けて、各教科等を関連づけたもの。



## 今後の課題

### ◆モデルカリキュラムの提示

- ・多様な実践の蓄積による年間カリキュラム事例の提示
- ・教科固有の学力と、横断的な資質・能力との関連の明示(学習評価の在り方について)
- ・カリキュラムの評価、改善サイクルの確立